

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000357		
法人名	社会福祉法人知立福祉会		
事業所名	グループホームほほえみの里若林 (桜)		
所在地	愛知県豊田市若林東町上外根12番1		
自己評価作成日	平成29年10月25日	評価結果市町村受理日	平成30年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kani=true&JgyosyoCd=2393000357-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	平成29年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>明るく、家庭的な雰囲気の中、入居者様が日々を明るく楽しく、その方らしい生活が過ごせる事が出来る様にスタッフ一同心掛けて取り組んでいます。認知症の方が穏やかに安心して過ごせる様にハード面とソフト面の環境に努めている。</p>
--

<p>事業所はデイサービスセンターが併設され、開設2年を経過し買い物や散歩を通して地域との関わりも広がりがつある。「心と心が通い合い、ともに笑顔で地域の中に暮らす」の理念と、年度ごとにグループホームの目標やユニット目標を職員で考え、それらを振り返りながら、日々の生活の中で、入居者が自分の有する能力に応じて自分らしく過ごせるように、一人ひとりに添ったケアをするように心がけている。また、「ほほえみの里若林のスタッフルール」を行動規範として、自分の行動を振り返り見直しをしながらケアに努めている。それぞれのユニットやデイサービスセンターへ自由に往き来をして、イベントやカラオケ、談笑などをして楽しく交流をしている。手作りの食事やおやつなど職員と一緒に調理したり、季節の花見や外出に出かけたりして楽しみ作りをしている。調度品や絵画などが程よく配置された、落ち着いた大人の生活環境の中で、自分らしくいられる場所に集い、笑い、安らぎあるのびのびとした生活を楽しんだり、柔らかな日差しが注ぐ和室で寝そべったり、ソファに腰かけ新聞を読んだり、職員と一緒に会話をしてゆったりと過ごしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中で暮らす」という理念を持って取り組みスタッフにも共有出来るように掲示をしている。	基本理念と基本方針があり、理念について会議の中で話し合う機会を作っている。グループホームの事業計画の一環として毎年入居者のケアに繋がられるような目標を掲げている。今年度は、「心と心が通い合い、ともに笑顔で地域の中で暮らす」を目標に日々取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントや近所のお店への買い物などなるべくホーム外へでて交流を出来る様にしている。	地域住民を対象に地域交流会を開催し認知症の勉強会を行っている。地域の祭りや納涼祭、中学校で学生企画の遊びの交流会があり、招待を受けて地域の一員として参加している。また地域で開催している喫茶サロンへ月1回参加する事で交流する機会を大切にしている。併設するデイサービスでのイベントに参加して地域の方との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	喫茶にて認知症の勉強会を開催した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設全体として、地域の中への参加や地域の方との連携についてアドバイスや評価を頂いている。サービスへの取り組みなどもっと細かな評価もして頂ける様にしていきたいと思う。	区長、民生委員、包括職員、事業所職員が参加して、年6回開催している。サービス向上に繋げる様に家族の意見は面会時に直接聞き、必要に応じて運営推進会議で報告をしている。推進会議に家族の参加がなく課題として考えている。地域交流や感染症、ボランティア受け入れなど検討項目を一つずつ積み上げる様にしている。	運営推進会議には家族の参加を得て開催し、それらの意見を反映させていくことが重要と考えられる。家族が集まりやすい日に日程の調整をしたり、会議の内容を連絡するなどして、家族が参加するような働きかけと工夫を望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所、介護保険課へは業務的な報告や入居等の相談をさせて頂いている。事業所の内部の相談や連絡が密に出来る関係性になってきたと思う。	市役所とは日頃から業務的な報告や相談などをして協力関係を築くようにしている。今年は地域包括支援センターから認知症カフェ開催依頼を受け、実施に向けて取り組んでいる。豊田市開催の研修会や勉強会に定期的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないが、玄関の施錠は目の前の道路の交通量や目が届かない等のリスクから安全対策として行っている。	身体拘束について、法人の研修会に参加し、ケアの実践に繋げている。安全を優先し玄関先と外門に施錠をしているが、各ユニットやデイサービスへの行き来は自由で、拘束感のない生活環境に心がけている。ケアの中でスピーチロックに注意を払い、薬についても医師に相談する事で防止に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について学ぶ機会は設けられていない。施設内でそういう事が起きない様な意識は持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会や活用の場を持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約説明時には、なるべく多くご家族様に参加をして頂いている。項目毎に質問や気になる点を確認して有意義な説明と納得の出来る契約に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や苦情窓口を設けて日常的に要望を聞く様になっている。	入居者の意見、要望は日常の会話や表情から読み取っている。家族からは、面会時に話を聞き取ることを心がけている。意見や要望は記録し、会議で話し合い運営に反映させている。ホーム便りや法人だよりを発行し、事業所の取り組みを理解して頂いている。また、年1度アンケートも実施し、結果は家族会で積極的に報告する様にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と話す機会は日常的にある。スタッフの意見を管理者に伝えられる様にしている。	日常の業務の中や引継ぎ時、職員の提案や要望を聞き、話し合いをして運営に反映させている。人事考課を基に年1回個人面談を実施し、要望、意見、悩みなどを聞く機会を設け、運営に反映するようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一回の個別面談と自己評価を行い、把握する機会はあるが、人員不足などなかなか環境の改善が出来ていない事がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、経験に応じた研修を法人内で行い外部研修も受講している。自らの希望した研修も参加出来る様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や介護保険課が主催する研修等への参加はあるが、他事業所との交流は出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	なるべく本人に話し掛け傾聴を行っている。親しみ易い態度で接するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの生活や好み等を聞き、どういう過ごし方をして欲しいかを確認する。家族が今まで困った事などを傾聴する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームサービスに縛られてしまい、他のサービスを使う機械はほぼ無い。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の盛り付け、掃除、洗濯などの日常生活を共にやり協力し合って生活を送って頂く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要な事、重要な事から日常の様子をお伝えして可能な事は協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	レクリエーションやイベント事以外ではあまり外出の機会が持たず、外部との関わりが少なめである。	アセスメントシートで生活歴や馴染みの人、場所を把握しケアに活かせる様に努めている。入居者の友人や家族が来訪し、談笑をしたり、買い物や、喫茶店に出掛け旧交を深めている。家族の協力のもとに墓参りに出かけたり、正月に自宅に帰ったりして、その時々思いや懐かしみなどの関係性が継続できるように支援している。編み物や塗り絵など趣味の継続も維持できる様に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の口論や小さなトラブルはあるがスタッフや他の入居者様が間に入って大概解決をしている。共用部分の掃除などを行い連帯感を持っていてと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の行き先や状況に応じて情報共有に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どんな暮らしがしたいか、1人1人の趣味や嗜好の把握に努め、自分らしく生活が出来る様に考えている。	入居者との会話や表情、行動から意向の把握に努め、随時職員間で話し合い本人の思いに沿えるようにしている。思いの表出の少ない入居者については、家族からの情報を得るようにしている。また、希望の把握が押しつけにならない支援を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の家族様からの聞き取りやケアマネ等サービス利用状況の把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの入居者様の様子を観察し記録し共有してスタッフで把握出来る様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族のニーズにスタッフが必要と感じる事等を加えて本人に合わせたケアプランの作り、見直しを行っている。	入居者や家族の思い、担当者等の意見を基にカンファレンスをして、介護計画を作成している。3か月に1回のモニタリングを行い、半年毎に見直しや随時の見直しもしている。プラン内容は実施チェック表に記録し、介護計画に反映させどの職員も入居者の状態を把握し、同じケアができるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子や食事、入浴排泄などその都度記入しケアプランが実践出来ているか、1日1日確認する事が出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームとしての生活の場の役割は持っているが、多機能化という点はなかなか難しい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に1度の地域交流喫茶に参加している。個々のこれまでの地域資源の活用を行う事までは出ていないと思う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1度の往診を行い、医師による入居者様の健康管理や報告と相談、場合によっては指示をもらっている。必要に応じ、又はご家族様の希望によっては往診に同席をしてもらう場合がある。	入居時にかかりつけ医、提携医の希望を聞いて選んで頂いている。提携医による月2回の往診がある。専門医の受診は家族が対応している。看護師が常駐しているので、日々の健康管理や急変時の対応について、医師と連携をしながら適切なケアが受けられるようにしている。受診に関わる情報や薬の取り扱いについては職員間で確認しながらケアにつなげるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中での申し送りを中心に行い、入居者様の態や様子の変化時は直ちに報告と相談を行う。看護師は必要に応じて主治医への報告を行い適切な指示をもらう。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中家族様、ソーシャルワーカー様との連携を取り、適時入院先に様子を伺いに行く。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、ケアマネ、看護師での面接や話し合いで行う。	重度化した場合や終末期に向けた方針については、入居時に家族に説明をして同意を得ている。今後に向け、看取りの支援の必要性を感じ取っており、知識や方法などを高めるために法人のターミナルケアの勉強会に参加していく事も検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアル作り、スタッフでの話し合いを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を全職員、全利用者様を対象に行っている。地域の協力体制を取ろうという試みはあるが、実際は協力体制が確立されていない。	火災・地震の避難訓練を消防機器業者の立ち合いで行い、消火器やAEDの扱い方、非常食づくりの体験を実施している。水や食料など3日分の備蓄があり、定期的点検している。隣のコンビニや小学校とは避難支援について話し合いをしているが、地域との協力体制は今後の課題としている。	消防署の協力を得て、消防署立ち会いのもとに訓練を実施し、夜間の避難や経路、安全確保などについて指導や助言を頂き、安全性の高い訓練をするように願いたい。また、運営推進会議等で防災や地域との協力体制についての話し合いをし、周知や広報活動に努めることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の性格やその時の心身の状況に合わせて声掛けや対応をする事が出来ていた。親しみを込めた関わりで一線を越えない様に気をつけている。	本人の立場に立った支援を実施し「嫌だと思ふ事はやらない」様にしている。施設には職員間で話し合いで決めた「若林スタッフルール」があり、年上の方への接し方、介護の専門用語を使って話をしない等、それぞれのプライバシーや立場を尊重したケアに心がけ、より良く過ごせるように配慮している。希望者には居室に鍵がかけられるように工夫され、プライバシーが損なわれないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人1人の意思を尊重して思いに添った支援が出来る様に働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースと過ごし方を尊重して過ごし方を伺ったり、こちらで判断して無理のない様に過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る服を選んで頂き、外出時のおしゃれを意識するなど身だしなみを整えて過ごせる様に支援をしています。洗顔、整髪を起床時に行える様に支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや配膳を可能な方は一緒に行って頂き、調理段階から入居者様を含めて行っている。季節物や行事には一緒にお菓子作りを行うなどして楽しんで頂いている。	献立表に基づき季節感のある食事や手作りおやつを提供している。食材は業者より届けられる。入居者は保有能力に合わせて、調理や盛り付け、片付けや洗い物等出来る事を職員と一緒にしている。おやつ作りや喫茶、外食なども楽しみのひとつとなっている。職員も一緒に食卓を囲み楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の健康状態に合わせて個々に対応している。(カロリーや食事形態)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた方法で航空ケアを行っています。自己で出来ない場合はスタッフが介助などをさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗を減らす為に個々の排泄の状況やパターンを把握し、トイレの誘導と声掛けを行っています。	座位での排泄やおむつ、リハビリパンツを使わない支援に心がけている。排泄チェックシートを活用し、一人ひとりに寄り添い、声かけやタイミングなどを工夫し、適切な支援をしている。夜間でも、尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、丁寧な見守りの支援を行っている。夜間にトイレが分かりやすいよう足元や手洗い場に照度を落とした灯りがある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に心がけ、朝食に牛乳やヨーグルト等を提供し飲食物に配慮をしている。適度な運動が出来る様に毎日ラジオ体操を行い、個々で歩行をする時間を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	なるべく個々の希望やタイミング、入浴の好き嫌いを配慮して入浴を行っているが、どうしても時間帯などこちらで決めさせて頂く事もある。	週3回を目安に入居者の希望を聞き、10時から夕食までを入浴時間としている。お湯は毎回張り替え、希望者には入浴剤を利用し入浴を楽しめるようにしている。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。足マットも一人ずつ交換し清潔を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調、体力に応じてご自分で休まれる方、こちらで判断して居室へ誘導し休んでいただく方、状態に合わせて適度に対応出来ていると思う。夜間も安心して眠れる様な環境に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての理解(効用、副作用など)が出来る様に介護職も処方箋等を見れる状況にし、分からない事は看護師に確認をしている。内服による病状の変化などは細かく観察し記録、報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	固定された役割は持っていないが、食事や掃除などの家事を一緒に行って頂く様にお願ひし、それぞれ皆様責任を持って行って下さっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿った外出は現実には出来ないが、定期的に外出の機会と外食を企画し皆さんと外出が出来る様に支援をしている。地域のイベントへの参加や家族様との外出外泊を積極的に協力して頂いている。	敷地内の散歩やテラスでの日光浴、花壇の手入れなどなるべく外に出るように心がけている。日常的に外出できる様に、コンビニやスーパーへ買い物に出かけたり、月に1度は食事会や花見などへ出かけている。入居者にアンケートを取り希望の場所へ行く様にしている。遠出の外出には家族も一緒に参加する機会もある。職員で下見をして、楽しい外出ができるように支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の金銭管理能力にに応じて、事業所管理と個人管理と分けている。外出時などご自分でお支払いをする様に促すなどしてお金に関する感覚を持って頂く様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様への依存がある方へ、ご家族様と連携を取りユニットから電話をされる方も居ます。ユニットの電話機は自由に使って良い事になっています。個人で携帯電話をお持ちの方も居る。個々でのやり取りは注意を払っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の物を飾ったり、入居者様と一緒に手入れを行ったりしています。温度、匂い、明るさ等不快にならなく気持ちよく過ごす事が出来る様に気に掛けて管理をしています。	梁の高い窓から日差しが入り、全体が明るい。共有空間には不必要なものは置かない様にし、自由で安全な環境を保つようにしている。掃除が行き届き清潔感がある。絵画や調度品が程よく置かれ、落ち着いた大人の生活空間や雰囲気を感じられる。畳の部屋やソファコーナーもあり、好きな場所でテレビや新聞を楽しんだり、畳に横になり寛いだりしている。アロマ加湿器を使用するなど、居心地の良い環境作りを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファや和室を設け個々に過ごされる方もいる。自室へ他の入居者様を招いてお話をされたり思い思いに過ごされている様子。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族、本人様の希望を重視しながら、危険な物(大きな刃物、火気の出る物)はスタッフで預らせて頂いている。	馴染みの物を持参して頂く様にしている。入居者が居心地良く過ごせる様に相談しながら支援を行っている。自宅で布団を敷いていた方は布団を使用する等、本人の意向を確認しながら過ごしやすい環境作りに心がけている。夫婦で入居されている方には、部屋の使い方を自分たちで工夫して利用できるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日用品や居室、トイレなどに名前を記入しご自分の物やお部屋という認識を持ってご自分で活動出来る様に工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000357		
法人名	社会福祉法人 知立福社会		
事業所名	グループホーム ほほえみの里若林 (藤)		
所在地	豊田市若林東町 上外根12番1		
自己評価作成日	平成29年10月25日	評価結果市町村受理日	平成30年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kani=true&UgyosyoCd=2393000357-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	平成29年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく家庭的な雰囲気の中、入居者様が日々を明るく楽しく、その方らしい生活が過ごせる事が出来る様にスタッフ一同心掛けて取り組んでいます。認知症の方が穏やかに安心して過ごせる様にハード面とソフト面の環境に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所はデイサービスセンターが併設され、開設2年を経過し買い物や散歩を通して地域との関わりも広がりがつある。「心と心が通い合い、ともに笑顔で地域の中に暮らす」の理念と、年度ごとにグループホームの目標やユニット目標を職員で考え、それらを振り返りながら、日々の生活の中で、入居者が自分の有する能力に応じて自分らしく過ごせるように、一人ひとりに添ったケアをするように心がけている。また、「ほほえみの里若林のスタッフルール」を行動規範として、自分の行動を振り返り見直しをしながらケアに努めている。それぞれのユニットやデイサービスセンターへ自由に往き来をして、イベントやカラオケ、談笑などをして楽しく交流をしている。手作りの食事やおやつなど職員と一緒に調理したり、季節の花見や外出に出かけたりして楽しみ作りをしている。調度品や絵画などが程よく配置された、落ち着いた大人の生活環境の中で、自分らしくいられる場所に集い、笑い、安らぎあるのびのびとした生活を楽しんだり、柔らかな日差しが注ぐ和室で寝そべったり、ソファーに腰かけ新聞を読んだり、職員と一緒に会話をしてゆったりと過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中で暮らす」という理念を持って取り組みスタッフにも共有出来るように掲示をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントや近所のお店への買い物などなるべくホーム外へでて交流を出来る様にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	喫茶にて認知症の勉強会を開催した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設全体として、地域の中への参加や地域の方との連携についてアドバイスや評価を頂いている。サービスへの取り組みなどもっと細かな評価もして頂ける様にしていきたいと思う。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所、介護保険課へは業務的な報告や入居等の相談をさせて頂いている。事業所の内部の相談や連絡が密に出来る関係性になっていきたいと思う。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないが、玄関の施錠は目の前の道路の交通量や目が届かない等のリスクから安全対策として行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待について学ぶ機会は設けられていない。施設内でそういう事が起きない様な意識は持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会や活用の場を持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約説明時には、なるべく多くご家族様に参加をして頂いている。項目毎に質問や気になる点を確認して有意義な説明と納得の出来る契約に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や苦情窓口を設けて日常的に要望を聞く様になっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と話す機会は日常的にある。スタッフの意見を管理者に伝えられる様になっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一回の個別面談と自己評価を行い、把握する機会はあるが、人員不足などなかなか環境の改善が出来ていない事がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、経験に応じた研修を法人内で行い外部研修も受講している。自らの希望した研修も参加出来る様になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や介護保険課が主催する研修等への参加はあるが、他事業所との交流は出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が安心、納得出来る様な声掛けを行ったり、繰り返し傾聴を行い安心して落ち着いて過ごせる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様とお話し、情報を得て対応出来る事は積極的に対応が出来ていると思う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度、今何が必要かを考えながら話し合いを行い現状に合わせたケアが出来る様にしている。他のサービスを含めてもっと幅を広げられたら良いと思う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事作りや掃除、洗濯などを行い日常生活の中でコミュニケーションを図り関係を保っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会等に来られたご家族様に日常生活の様子や課題を話し、意見交換を行いスタッフとご家族で協力し合えていると思う。定期的にご家族様を含んだレクリエーションや行事を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や、これまでお付き合いのあった方などの馴染みの付き合いを大切に積極的にお招きをしている。場合によっては自宅への外出、外泊やこれまで通っていた場所へ出向く等の支援もご家族様を交えて努力をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが利用者様同士の仲介に入り、お互いに良い関係が保てる様にしている。中には利用者様同士でのお付き合いで自室へ招くなどの方もいる。孤立しない様に適度に声掛けや一緒に過ごす等工夫もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、その方とご家族様にとってベストな選択が出来る様に面談や調整を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に個人シート(私の今の姿と気持ち)を使用し1人1人の思い、希望、意向を把握する様に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	私の暮らし方シートを使用し情報を集め定期的に確認し継続して良いサービスが受けれる様に支援をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	焦点情報シート等を使い現状の把握に努めている。定期的に確認も行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3日月ごとのモニタリングを行い、ご本人、ご家族、介護職員、看護師、ケアマネ全体で意見を反映しサービス内容計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別での記録を作成し記入し、スタッフ間での情報を共有し介護計画の参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、面会時にご家族様の状況等を確認しニーズの対応をしている。過去のサービスや情報にとらわれる事のない様に常に旬なサービスに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りや喫茶等へ参加をし地域との交流を深めていっている。施設として、認知症の勉強会等を企画し資源として活用して頂ける様にすすめている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診とかかりつけ医について契約時に意向を確認して往診を利用するか、これまでの医療機関を継続するかを選択して頂いている。往診以外の受診はその方の心身の状況を伝える様に記録物やデータを提供をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職が一体となって日々のケアにあたり常時相談しあえる環境を保っている。看護師か医師への連絡相談も行える様な関係性も保って瞬時に対応が出来る様になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の経過や退院後の受入等の情報交換を医療機関、家族と行い、治療内容と回復時の対応などの交換を小まめに行い、本人様とご家族様、施設との相違等がない様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化と終末期への対応の説明と同意を入居契約前より行い(施設での看取りの未実施と重度化した際の対応)ご家族様と施設での相違がない様にしている。重度化してしまう前よりご家族様に状況の変化を報告し他施設への申し込みや転居を視野に入れて頂く様に前もって話をさせて頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人職員への救急法講習への参加をさせ、緊急時のマニュアル作成と対応法についてをユニット毎に設置している。実践力にはまだまだ欠けているので強化をしたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練時に(年に2回)火災、震災などの避難についての説明と動きの確認を行い、避難所への経路確認や屋外への避難誘導を行い身に付ける様にしている。地域の協力まで至っておらず強化をしていかなければならない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いのルール、入居者様との接し方についてのルールを決めて職員控室等に表示し全職員が確認する様にしている。新入オリエンテーションにも周知をしている。親しくなるうちに言葉使いなど乱れない様に気をつけなくてはならないと思う。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な範囲ではあるが、入浴や外出に本人様の希望を取り入れている。自己決定を尊重した生活が送れる様にスタッフも気をつけてケアをする様にしているが、こちらの都合に合わせてもらっている事も多々あると思う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方に合わせて起床や就寝を行い、1人1人の生活スタイルを尊重していると思う。どの様に過ごしたいか等の希望をもっと叶えられる様にする必要があると思う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれが好む服装選びをして頂き、難しい方には季節や気候、色等でその日に相応しいものを選ぶようにしている。個々でお化粧などを楽しまれる方も居ます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理を行い、味見をして頂くなど食事作りに積極的に参加をして頂いている。おやつ作りや食事レクリエーションを通りを行い食事を楽し事の1つとして捉えられる様に工夫をしている。自己の食器は可能な方には下膳等も協力して頂ける様に声掛けを意識している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取、水分摂取を記録し食欲、栄養状態を看護師と共に管理をしている。嚥下の状況等に合わせて食事の形態を変えたりゼリーでの提供等の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の状況にあわせて口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状況に合わせて確認をしたり、トイレの声掛け、誘導を行っている。パットを使用している方もなるべくトイレで排泄が出来る様に排泄パターンを読んで良いタイミングで誘導が出来る様にしているが、パット内に済ませてしまっている事も多く難しくも感じる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取や適度な運動を行い便秘とADL低下の予防に努めている。看護師と連携し排便のコントロールを行い場合によっては下剤等の内服も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前や午後の時間帯をご本人様に確認してなるべく希望に沿った入浴に心掛けている。が場合によってこちらの都合で入浴日時を決めさせて頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分の判断と行動で出来る方はそれぞれの時間に休息と入眠をされています。誘導介助が必要な方はその方の体調や様子で休息と入眠して頂くように援助しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	会議などで議題にして、内服とその効果と様子等を看護師と一緒に話し合い医師と薬剤師に報告と相談を行っている。薬の変更時や様子の変った事などは記録に残す様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の希望に沿った外出や気分転換の支援が行えず、企画したレクリエーションや外出を行い楽しんで頂ける様にしている。個々の外出や趣味などが行えるようにしていきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にそってもそうだが、外出自体が少ないと思う。レクリエーションや外食など企画された行事で楽しんで頂いてる程度である。家族や地域との連携による外出支援をもっと沢山行い社会参加を増やしていきたいと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が可能な方はご自分の財布を持って買い物やお支払いをしている。ほとんどの方が事務所管理で金銭は預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも施設の電話を使える様にしている。個人の携帯電話をもたれている方もいる。手紙に関してはほとんど行っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は誰でも利用出来る様にしている。花や季節の飾り物を置いて居心地の良く気軽に利用できる雰囲気作りに気をつけている。室温や明るさ等不快にならない様に管理をさせて頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士気の合う方と同じテーブルにしたり、自由に台所やソファ、テレビなどを使って頂いている。それぞれの見たい番組など意見が相違してトラブルを招く事のない様にスタッフが間に入る事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人様が使い慣れた家具や寝具等を持ち込みこれまで過ごしてきた環境に近い状態で過ごせられる様に入居前の準備からご家族様と相談し部屋作りを行っている。基本的には持ち込み危険物以外は持ち込み可能としている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表記や掲示物に工夫をし、認知症の方でも少しでも出来ることや分かる事が多くなる様に工夫をしている。スタッフの意識も出来る事はご自分で頂く。事を念頭に置いてケアにあたっている。		